

テーマ 浦富海岸の岩礁とサーフゾーンの生物相・生態系構造解析

研究者 吉永 郁生（公立鳥取環境大学）

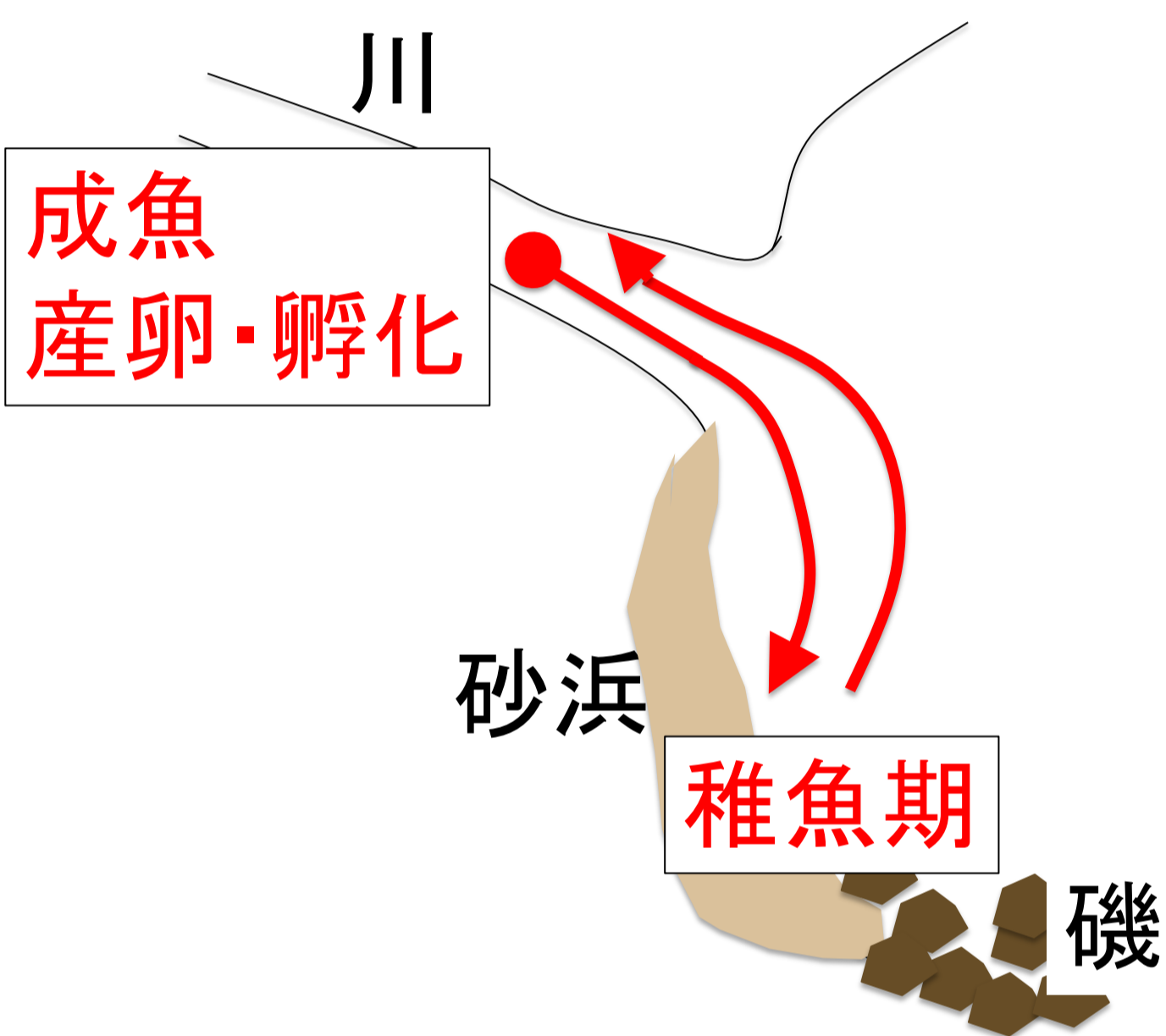
概要

侵食地形の磯（岩礁）と砂浜が交互に連なる浦富海岸は景勝地としてのみならず、ハマチなどの回遊魚やカサゴ・キス・サザエなどの地付きの魚介類、そして、川と海を行き来するアユなどの“通し回遊魚”にとっても重要な環境です。しかしこれらの海洋生物の餌資源となる海岸域の微細な動植物の動向の詳細な検討はなされていない。本研究では、危惧されている磯焼けを含め、岩礁と砂浜の生態系基盤の解明を最終的な目的としています。

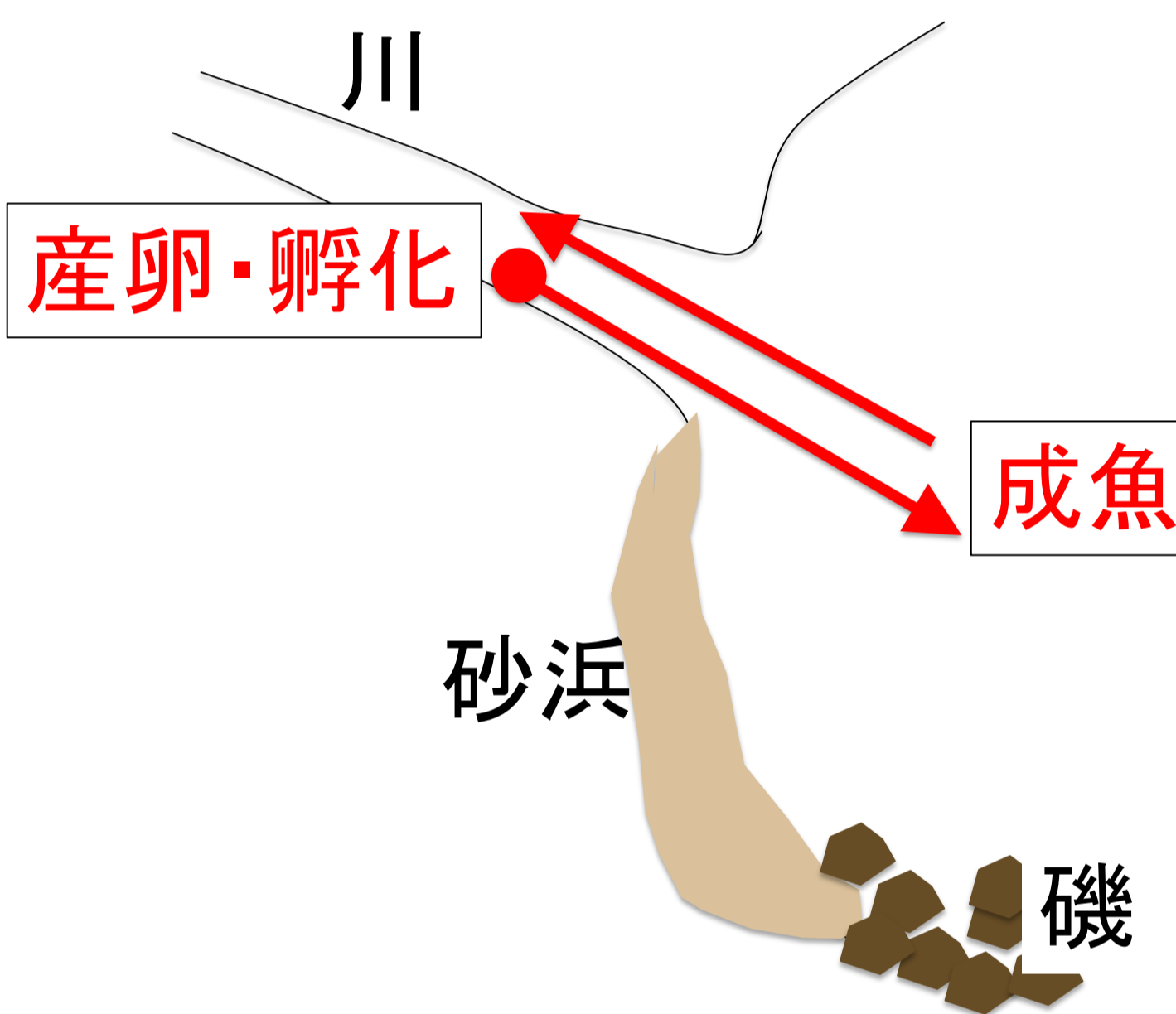
研究内容

多くの海洋生物は、その生活史の中で深場と浅場を行き来します。中には、河川と海を行き来する、サケやアユ、ウナギ、テナガエビなどもあります。これらの魚類にとって、砂浜や磯（岩礁）、そしてそれぞれの場に繁茂する海草（アマモなど）や海藻（アラメやカジメなど）は、特に仔稚魚期などの個体が小型の時に、生息域として重要です。また、生活史全般を海で過ごす魚類にとっても、浅場は重要です。

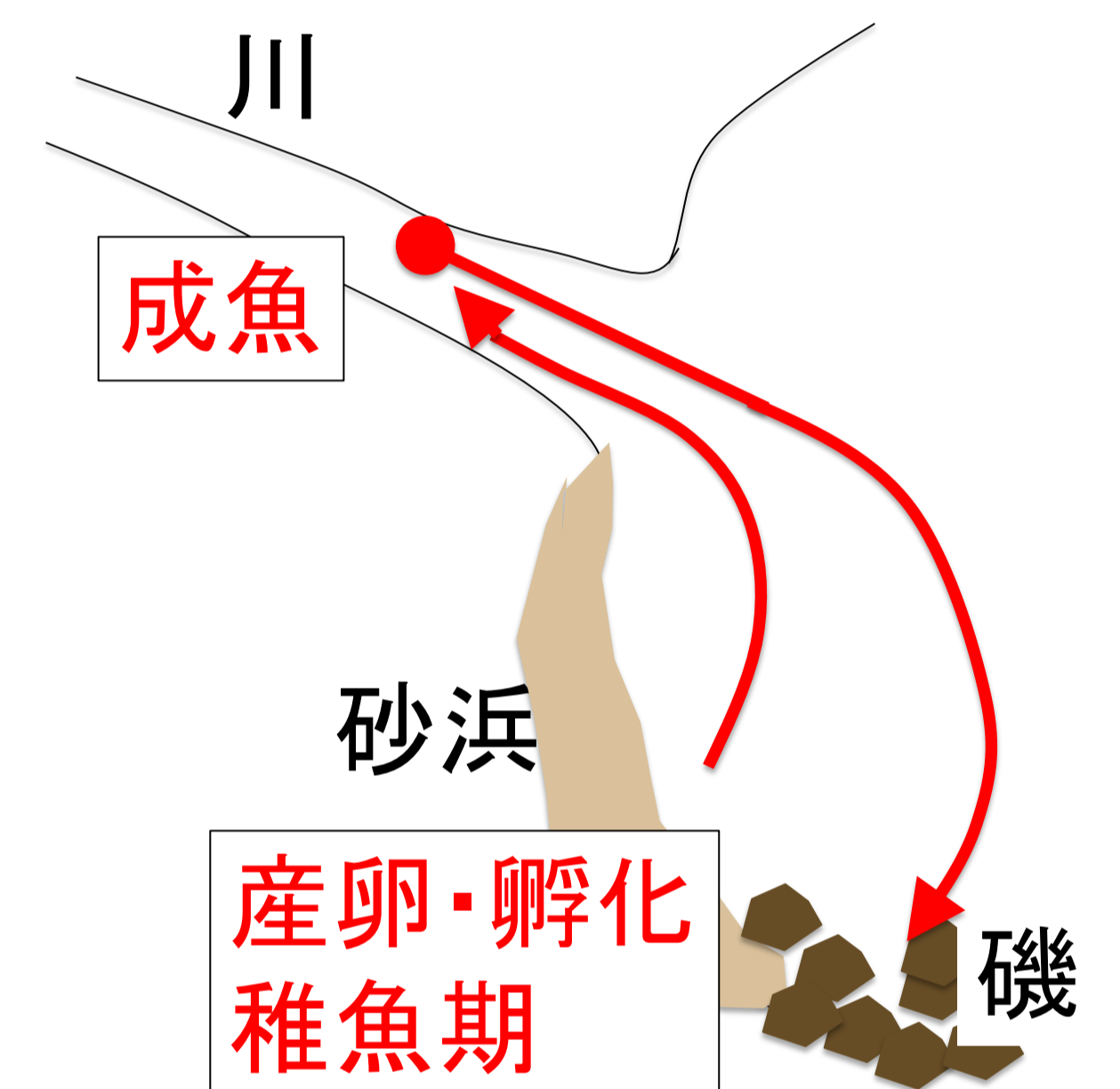
両側回遊（アユ・テナガエビ等）



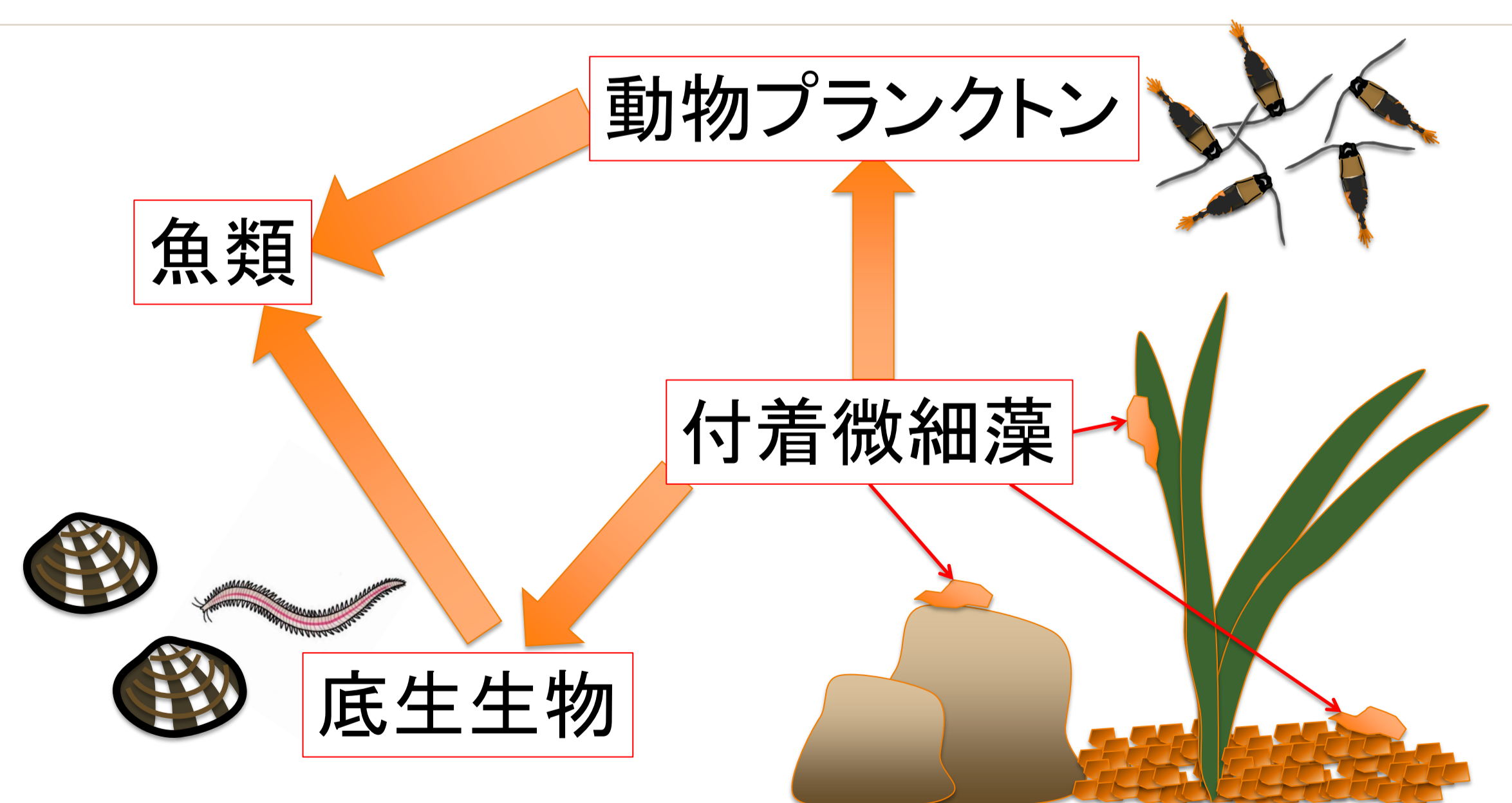
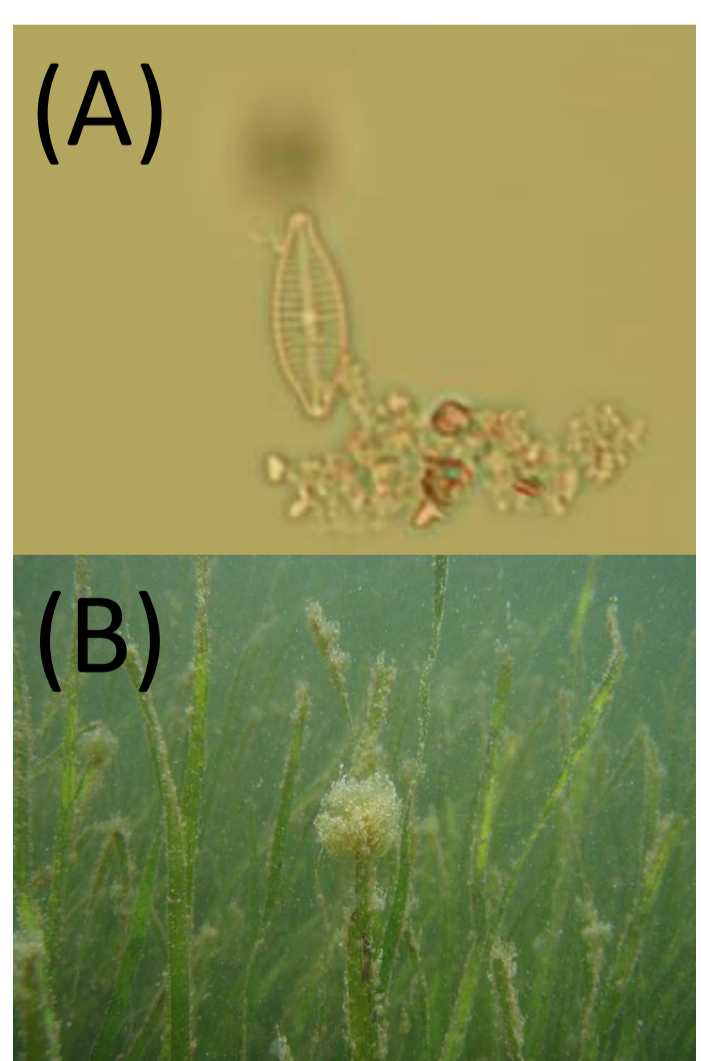
遡河回遊（サケ等）



降河回遊（アユカケ等）



砂浜には、海草のアマモが、磯場には、アカモクやホンダワラなどの海藻が繁茂しています。これらは光合成を行う植物ですが、海洋生物の食物連鎖における基礎生産者としての機能は、これらの海草（海藻）や、砂粒、岩表面に生息する付着微細藻が寄与しているのではないかという仮説を立てています。本研究では、付着微細藻を含めて、海水中の浮遊性植物プランクトン（浮遊微細藻）や大型海藻、さらには、非生物性の有機物（デトリタス）などを沿岸生態系の基礎生産者と位置づけて、これらの寄与度を、さまざまな視点から解析しようと考えています。



応用分野

水産業、水産資源管理、沿岸環境管理、環境教育

連絡先

公立鳥取環境大学 環境学部 教授 吉永郁生
 連絡先 (iyoshina@kankyo-u.ac.jp、0857-38-6752)